

第2次糸魚川市環境基本計画

令和3年度進捗状況報告書

令和4年2月1日

ここでは、5つの施策（基本目標）ごとに掲げた数値目標と、市の役割として設定した取組の中から、主な活動を抜粋し、進捗状況を説明しています。

報告書の数値目標の表中で、現状欄に記載されている数値については、現時点で把握できる直近の数値を用いています。

基本目標 1 地球にやさしい人が育つまち = 地球環境 =

■数値目標

| 環境指標 | 策定時 | 目標 (2023 年度) | 前回 報告数値 | 今回 報告数値 |
|---|--------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| CO ₂ 排出量 (単位：千t-CO ₂) | 557.1 (2013 年度) | 412.3 (2030 年度) | 480.3 (2017 年度) | 416.0 (2018 年度) |
| 新規就業者数（林業） | 2 人 (2015 年度) | 22 人 ※2015 年度から累計数 | 15 人 (2019 年度) ※同左 | 17 人 (2020 年度) ※同左 |
| 再生可能エネルギー利用 共施設数 | 34 施設 (2018 年度) | 40 施設 | 34 施設 (2020 年度) | 34 施設 (2021 年度) |
| 市民の再生可能エネルギー 設備の導入状況 | 217 件 (2018 年度) | 230 件 | 219 件 (2019 年度) | 223 件 (2020 年度) |

【詳細説明】

- ・「CO₂排出量」は、減少傾向です。
- ・「新規就業者数（林業）」は、森林の多面的機能を維持するため、年平均 2.5 人の新規就業者を目標としており、2020 年度は計画値を達成しています。
- ・「再生可能エネルギー利用公共施設数」は、新規設置がなかったため、昨年と同数となっています。
- ・「市民の再生可能エネルギー設備の導入状況」の件数は、補助制度利用件数の累計であり、2020 年度は太陽光発電設備で 1 件、ペレットストーブ設備で 3 件ありました。

■市の取組

| 取組方針 1 地球温暖化の緩和策の推進 | |
|-----------------------|---|
| 施策 | 地球温暖化に資する賢い選択（COOL CHOICE）を周知することで、市民・事業者等の意識啓発や自発的な取組の促進を図ります。 |
| 実施内容 | ・年に 2 回行われる「にいがた COOL CHOICE（クールチョイス）省エネキャンペーン」の周知を実施しました。啓発活動のツールとして定着しています。 |
| 取組方針 3 再生可能エネルギーの導入促進 | |
| 施策 | 再生可能エネルギーを利用した発電事業を検討している事業者に対し、関係者との調整を行います。 |
| 実施内容 | ・湯沢川では、小水力発電を検討している事業者があり、進捗状況の共有や関係機関との調整を行っています。 ・市民向けに中小水力発電の仕組みや発電電力の活用例、先進地の導入事例等の紹介、再生可能エネルギーを用いた地域の活性化などを懇談する、中小水力発電懇談会を実施しました。 |

基本目標 2 生きものと大地の営みを感じるまち =自然環境=

■数値目標

| 環境指標 | 策定時 | 目標 (2023年度) | 前回 報告数値 | 今回 報告数値 |
|--------|------------------|----------------------|---------------------|---------------------|
| 新規就農者数 | 6人 (2015年度) | 38人 ※2015年度からの累計数 | 32人 (2020年度) ※同左 | 37人 (2021年度) ※同左 |
| 認定農業者数 | 165人 (2015年度) | 200人 | 162人 (2019年度) | 140人 (2021年度) |

【詳細説明】

- ・「新規就農者数」は、安定的な農業経営を目指すため、年平均4人の新規就農者を目標としており、2021年度は計画値を達成しています。
- ・「認定農業者数」では、新規認定がなく、農業従事者の高齢化が進み、策定時の人数から減少傾向にあります。

■市の取組

取組方針 4 大地とふれあうジオパークの保全・活用

| | |
|------|--|
| 施策 | 自然と触れ合える体験学習の場として里山や森林や野山、海岸や河川を活用した各種イベントの実施や参加型学習会、ジオパークに関連した学習会を開催します。 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習会や講演会などのジオパークに関連した事業を実施しました。 ・講演会3回、計955人参加、講座3回、211人参加。 |

取組方針 5 生物多様性保全と持続的な利用

| | |
|------|---|
| 施策 | 外来生物の生息・生育状況の把握に努め、効果的な分布域の縮小方法を検討します。 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に田海ヶ池生物生息調査を実施しました。植物やトンボ類など多くの在来種が確認できました。 ・外来生物の駆除活動では、釣り大会を開催したほか、バスポストを設置し、オオクチバスやカムルチー、ウシガエルやクサガメを駆除しました。 ・保護活動では、トンボの産卵場となるコンテナビオトープを設置し、幼体を保護しました。 |

取組方針 6 暮らしが息づく農村環境の継承

| | |
|------|--|
| 施策 | イノシシやサルなどの野生鳥獣の生息情報の把握に努めると共に、情報提供及び、「糸魚川市鳥獣被害防止計画」に基づき被害防止策を推進します。 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から、有害鳥獣集落環境診断調査事業を来海沢集落にて実施しており、今年度は、住民が「誰が」「いつ」「どのような対策を行うか」を話し合いました。 ・捕獲の強化を図っており、クマ104頭、イノシシ530頭を駆除しました。 |

基本目標 3 物を大切に使い、資源が循環するまち =資源循環=

■数値目標

| 環境指標 | 策定時 | 目標 (2030 年度) | 前回 報告数値 | 今回 報告数値 |
|-----------------------------|----------------------|-----------------|---------------------|---------------------|
| 一人1日当たりのごみ総排出量 | 1,005 g (2018 年度) | 911 g | 1,010g (2019 年度) | 1,035g (2020 年度) |
| 一人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (資源系除く) | 635 g (2018 年度) | 551 g | 638 g (2019 年度) | 679 g (2020 年度) |

【詳細説明】

- ・「一人1日当たりのごみ総排出量」は、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」、「資源ごみ」の総排出量を一人1日当たりに割り返したごみの量です。
- ・「一人1日当たりの家庭系ごみ排出量(資源系除く)」は、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の一部を一人1日当たりに割り返したごみの量です。
- ・どちらともわずかですが増加しており、ごみの減量に向けての啓発活動が重要と考えます。

■市の取組

取組方針 7 ごみの減量化・3Rの推進

| | |
|------|---|
| 施策 | 出前講座や体験学習などを通じて、幼保小中学生や一般市民がごみの減量化やごみ処理、リサイクルの意義が理解できるように支援します。 |
| 実施内容 | ・令和3年度、エコライフ出前講座 20回(参加者491名) [主催：一般財団法人上越環境科学センター] |

取組方針 8 ごみの適正処理の推進

| | |
|------|---|
| 施策 | 分別区分については、次期ごみ処理施設の稼働や廃棄物に係る社会情勢の変化などに応じ見直していきます。 |
| 実施内容 | ・令和2年度から新ごみ処理施設の稼働により、「燃やせないごみ」の一部を「燃やせるごみ」として出せるよう分別方法を変更しました。 ・これにより、「燃やせないごみ」の処分量は、令和元年度では980.33トン、令和2年度では539.62トンと減少しています。 ・一般廃棄物最終処分場の運用を開始しました。 |

基本目標 4 安全・安心、みんなが笑顔で暮らすまち =生活環境=

■数値目標

| 環境指標 | 策定時 | 目標 (2023年度) | 前回 報告数値 | 今回 報告数値 |
|-----------------------|---------------------------------|---------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合 | 83.3 % (15/18項目) (2018年度) | 88.8 % (16/18項目) | 77.8 % (14/18項目) (2019年度) | 83.3 % (15/18項目) (2020年度) |
| 環境美化パートナー団体数 | 14 団体 (2018年度) | 20 団体 | 20 団体 (2020年度) | 25 団体 (2021年度) |
| 環境デーの実施地区 | 116 地区 (2018年度) | 125 地区 | 104 地区 (2020年度) | 105 地区 (2021年度) |

【詳細説明】

- ・「大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合」では、大気環境では光化学オキシダント（Ox）、水環境では生物化学的酸素要求量（BOD）、大腸菌群数で未達成の個所がありました。
- ・「環境美化パートナー団体数」では、目標数を達成しました。
- ・「環境デーの実施地区」では、新型コロナウイルス感染症の影響や天候不順により、実施を控える地区があったため、前年度とほぼ同数となりました。

■市の取組

取組方針 9 環境公害の継続的な監視と抑制

| | |
|------|--|
| 施策 | 継続した騒音・振動、悪臭の調査及び監視体制を維持・継続します。 |
| 実施内容 | ・大気1地点、河川27河川、騒音31地点、振動1地点、悪臭5地点で調査を実施しています。 |

取組方針 10 非常時の安全・安心に向けた対策の強化

| | |
|------|--|
| 施策 | 環境基準値の異常や汚染が認められた場合は、関係機関と連携して迅速な対応を講じます。 |
| 実施内容 | ・令和2年度の騒音、振動、悪臭による苦情件数は23件、そのうち処理件数は23件で処理達成率は100%となっています。 |

取組方針 11 自発的な環境美化・清掃活動の推進

| | |
|------|---|
| 施策 | 「環境デー」の実施や、「環境美化パートナー」をとおして、地域や市民、事業者により美化活動の支援・推進と、ポイ捨て・不法投棄に対する意識啓発を図ります。 |
| 実施内容 | ・「環境美化パートナー」の活動回数は、令和2年度20団体36回、令和3年度25団体40回と5団体増えており、市民の関心が高まっています。 ・「環境デー」も含め、美化活動への積極的な参加がみられます |

基本目標 5 一人ひとりが行動し、環境保全に取り組むまち =環境行動=

■数値目標

| 環境指標 | 策定時 | 目標 (2023年度) | 前回 報告数値 | 今回 報告数値 |
|---------------------|------------------------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 出前講座の開催数 | 19回 (2018年度) | 25回 | ごみ分別出前講座 21回 (2019年度) | ごみ分別出前講座 11回 (2020年度) |
| ジオパーク検定合格者数 (累計) | 1,803 人 (2018年度) | 2,100人 | 1,942人 (2020年度) | 1,978人 (2021年度) |

【詳細説明】

- ・「出前講座の開催数」は、11回でした。新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少しています。
- ・「ジオパーク検定合格者数(累計)」は、初級、上級、達人級の合格者を、年平均59.4人と目標にしており、令和3年度の検定までで延べ1,978人がそれぞれの級に合格しており、2021年度は若干ですが、計画値に達成しませんでした。

■市の取組

| 取組方針 12 環境に対する意識啓発と情報提供 | |
|-------------------------|---|
| 施策 | 環境への意識啓発の機会として、イベントや学習会を開催します。 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度環境フェアについては、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、中止としました。 ・一般市民向けの出前講座を11会場、244人を対象に実施しました。多くの方から普段気になっていた分別方法について質問をいただき、正しいごみの出し方など理解を深めていただきました。 |
| 取組方針 13 将来の環境の担い手を育成 | |
| 施策 | 有識者や団体等と連携し、環境学習会の内容等を充実させます。 |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体による「Earth Day(アースデー)」(環境問題の取り組みを広げるイベント)が開催され、VR(仮想現実)シアターを用いて、地球温暖化による将来の危機を体感できるコーナーを設営しました。 |